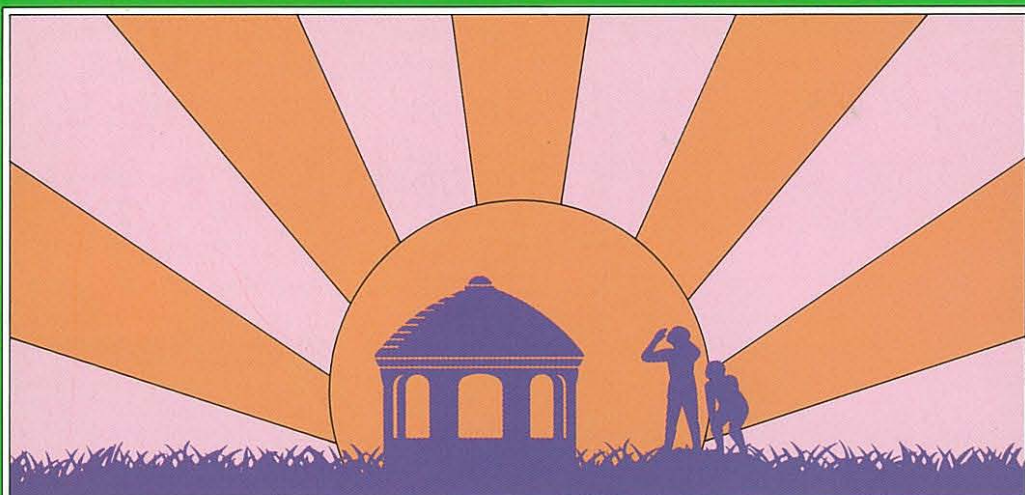
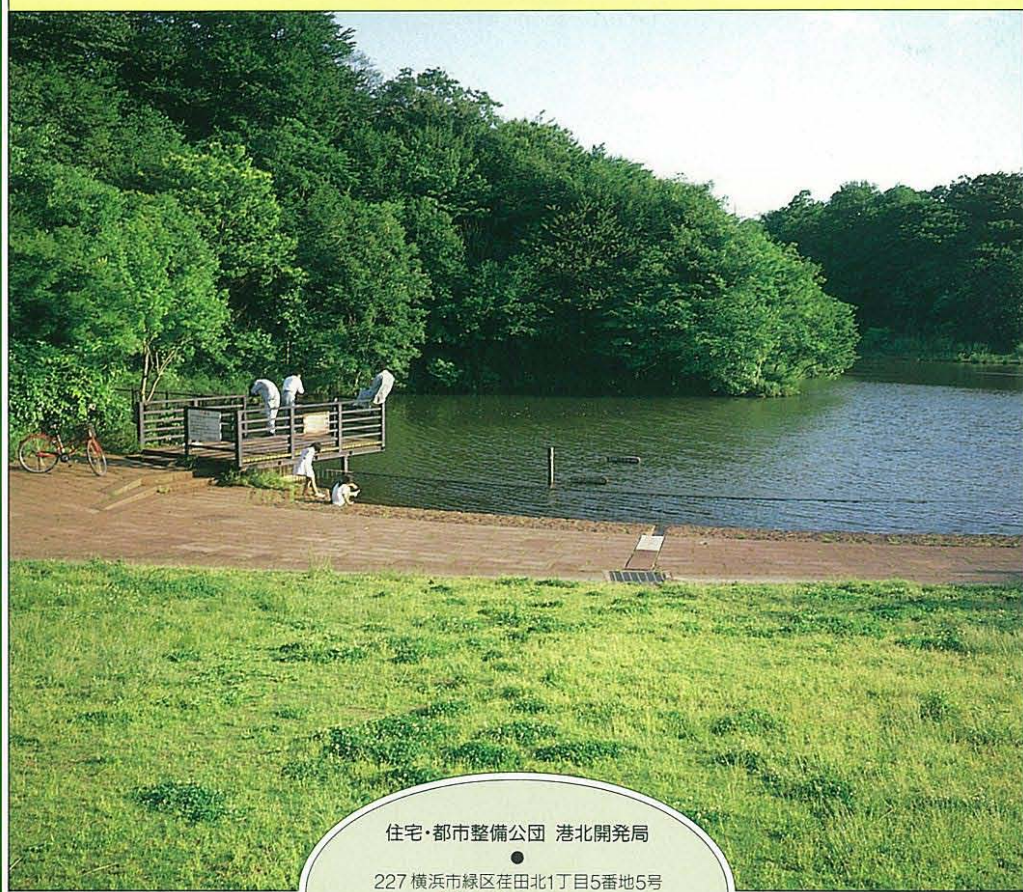




港北ニュータウン

Parks & Green Routes

公園と緑道の計画



住宅・都市整備公団 港北開発局

●
227 横浜市緑区荏田北1丁目5番地5号
電話 045(943)7325
AUG. 1989

制作 ㈱RIVアソシエーツ©

自然の地形や林を
最大限に生かし、育てる
みどりとせせらぎの
まちづくり。



近隣9号公園

近隣9号公園は、大熊駅前センターの北側に位置する緑道3号ルート上の中核的公園である。都市計画道路 新羽・荏田線によって敷地は南北に分割されているが、せせらぎ橋で結ばれている。また、公園の北側はモデル事業として先行整備され、昭和55年に日本都市計画学会賞を受賞している。

DATA | 概要

所在地	港北区新栄町17および緑区仲町台2-19
公園面積	37,294㎡ 運動広場19,600㎡(併設)
整備年度	昭和52年度～
主要施設	(北工区)池、古民家、長屋門、せせらぎ水路、休憩広場 (南工区)芝生広場、小池、せせらぎ水路、便所、ガゼボ
整備種別	施設整備(モデル整備)
現況林面積	約12,000㎡



移築古民家(江戸後期)



移築長屋門(江戸後期)



緑道へのせせらぎ放水堰



南北をつなぐ、複眼のアーチ カルバート



北原せせらぎ公園(仮称)



近隣11号公園

緑道4号の中間にある近隣11号公園は、緑道と一体のオープンスペースを形成する近隣公園である。北側の造成された芝生広場は緑道4号の峠にあたり、渋沢・東方水系の分水嶺となっている。南側の大部分は自然の地形をそのまま保全した雑木林の小山で、山園路と山頂広場が整備されている。

DATA | 概要

所在地	緑区茅ヶ崎南5-23および東方町
公園面積	25,482㎡ 運動広場19,500㎡(併設)
整備年度	昭和59年度～60年度
主要施設	芝生広場、パーゴラ、ストーンファニチャー、便所 (プレイロット)木製遊具、すべり台、砂場、多目的運動広場(併設)
整備種別	施設整備
現況林面積	12,500㎡



公園南側に配されたプレイロット



方位石を兼ねたストーンファニチャー



公園のシンボル、石のパーゴラ



緑に囲まれた公園内トイレ



葛ヶ谷公園

港北ニュータウンの公園整備は、「緑の環境を最大限保存するまちづくり」「ふるさとをしのばせるまちづくり」という基本方針のもとに整備が行われています。公園面積の約半分は、現状の地形や既存の自然を生かした設計として、多様なレクリエーション活動の実現と同時に、生物環境の保全・育成も目指しています。ニュータウン内には、全域および周辺地域を対象とした自然公園の性格の「総合公

園」1カ所、自然の地形や植生を取り入れた「地区公園」4カ所、「近隣公園」15カ所、子供の遊び場としての「児童公園」65カ所の4タイプの公園があり、それぞれの利用圏に応じて配置されています。こうした公園を有機的につないでいる緑道が5ルートあり、その総延長は約14.5キロメートルに及んでいます。また、基幹となる公園や緑道には「水」を導入した“せせらぎ”が計画されています。

近隣12号公園

歩行者専用道路によって荏田近隣センターと結ばれている近隣12号公園は、その敷地の大半が独立した山で、山頂にはかつて地元住民により不動尊が祭られていた。不動尊跡地は現在、山頂広場として整備され、公園名称に“不動”が残された。現況林内には、山頂へ至る125段の石階段、山園路、南側斜面には花梅、景石が整備されている。

DATA | 概要

所在地	緑区荏田南4-9
公園面積	20,244㎡
整備年度	昭和61年度
主要施設	山頂小広場、芝生広場、石階段、景石石組、多目的広場
整備種別	基礎整備※
現況林面積	11,000㎡

※当面、公園が開園に資するための基礎的な整備を行い、将来市が二次的な施設整備を行うもの。



山頂に整備された小広場



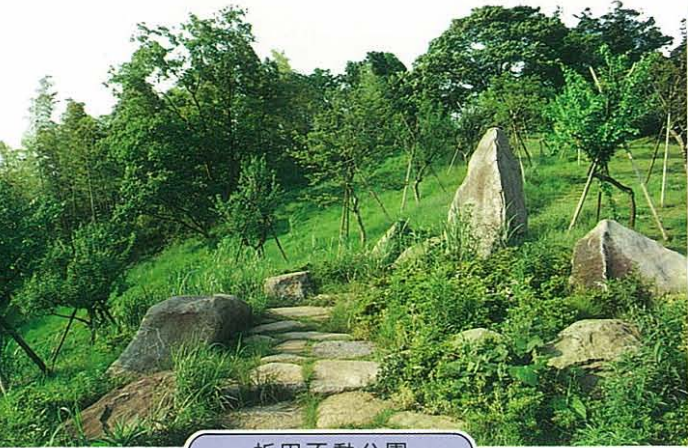
不動尊跡地のマイルストーン



北入口からのアプローチ



多目的広場と山の全景



折田不動公園

近隣13号公園

近隣13号公園は、緑道5号の中間点に位置する。富士山の形状は江戸時代の富士講のシンボルである浅間塚の再現を意図したものであり、山頂は360°の展望台として、遠くに富士山、新宿副都心を望むことができる。南側には小富士が連なり、すそ野には休憩広場が整備されている。

DATA | 概要

所在地	緑区富士見が丘20
公園面積	22,323㎡
整備年度	昭和55年度～60年度
主要施設	展望広場、登山道、芝生広場、休憩広場、便所、四阿、景石石組
整備種別	施設整備(モデル整備)
現況林面積	0㎡



港北七富士の一つを再現した川和富士塚



すそ野に展開する園地



入口部分の小広場



富士塚をデザインした公園内トイレ



川和富士公園



緑道4号〈ささふねのみち〉

ニュータウン内の5ルート緑道はグリーン・マトリックス・システムの骨格となるもので、各種のオープンスペースを有機的に結び、みどりのネットワークをつくりだすことを目的としている。緑道の幅は10メートルから40メートルであるが、緑道を中心とする景域には、集合住宅、施設用地、学校、運動広場などのスーパーブロックが配置され、緑道とスーパーブロックの斜面緑地を含めると緑の幅が100メートル以上に及ぶ区域もあり、広大な緑化空間が演出されている。緑道のもうひとつの目的は、地域の特色である谷戸景観の保存・再現である。斜面の既存林を極力保存し、谷戸の最も低い位置には「せせらぎ」を流し、「緑」と「水」が一体となる豊かな自然空間が形成されるよう計画されている。

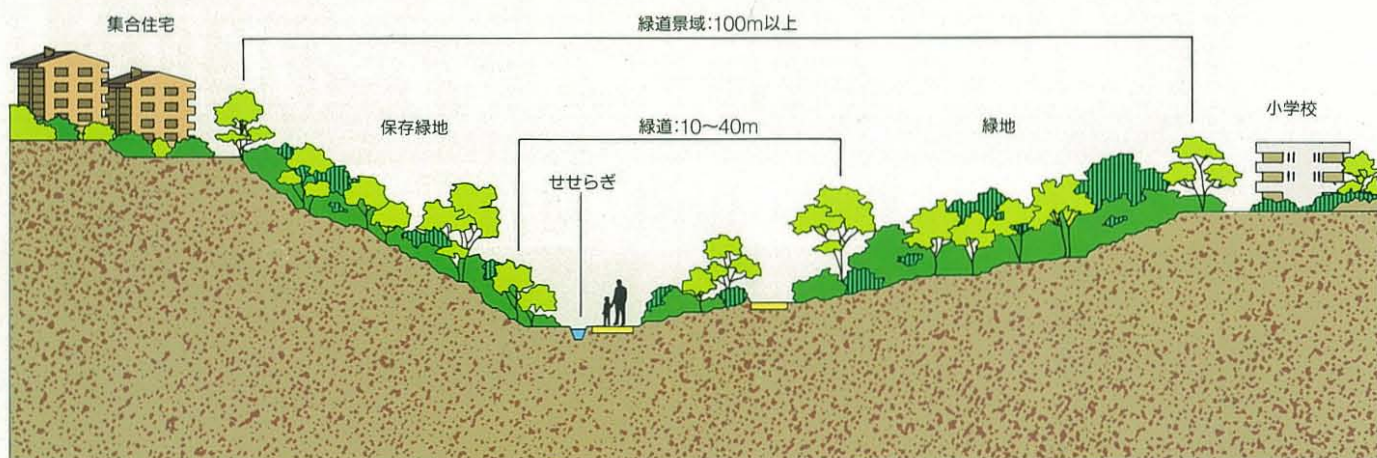


第二地区の茅ヶ崎から東方を経て渋沢方面に至る緑道4号は、平均緑道幅員30メートルで、せせらぎを有する「基幹的緑道」である。せせらぎや橋梁を中心に、隣接する公共公益施設の保存緑地と一体的空間を形成して、広がりのある景域を有している。東方工区は地形上平坦で顕著な湧水もないが、渋沢工区は谷戸部の既存集落、屋敷林、寺院と一体となった「歴文景域」を形成している。



DATA | 概要

所在地	緑区荏田東2～4、東方町および茅ヶ崎3
緑道幅員	15m～40m
緑道延長	2.1km
緑道面積	62,700㎡
整備年度	昭和58年度～
整備種別	施設整備(モデル整備)
現況林面積	1,400㎡



緑道断面図／東方工区(ささふねのみち)



東方工区



地区4号公園〈鴨池公園〉

地区4号公園は、緑道4号（ささぶねのみち）と緑道5号（ゆうばえのみち）の結接点に位置し、第二地区西側の基幹公園となっている。公園敷地は、都市計画道路 新横浜・元石川線によって東西に分断されているが、公園橋で連絡し、公園として一体性をもたせるように計画されている。西工区は、旧来からあった湧水を保護した池と林から構成され、北側に隣接する集合住宅と公園が溶け合った空間を形成するよう、景観の調和が図られている。東工区は、運動広場と既存林から成り、既存林は旧集落の裏山として存在したものを保全・活用している。このため、かなり広い範囲に渡って豊かな自然の姿が残された公園となっている。

DATA | 概要

所在地	緑区荏田南1-18および荏田東3-2
公園面積	88,020㎡
整備年度	昭和57年度～60年度
主要施設	池、親水広場、生物相保護区、公園橋、多目的広場、せせらぎ、四阿、彫刻広場
整備種別	施設整備
現況林面積	33,000㎡



毎年秋にはマガモが飛来する、西工区の中心鴨池。この池は、緑道4号を流れるせせらぎ（渋沢水系）の水源にもなっている。

球技、ピクニックなど多目的に利用できる運動広場。この広場は、雨水貯留の機能も一部有している。



公園と集合住宅はゲートによって有機的に結ばれている。

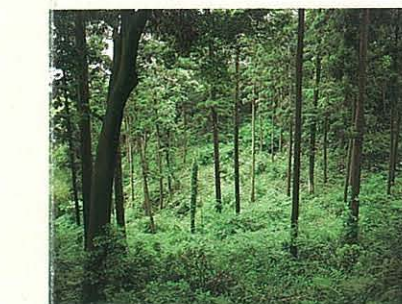


鴨池の山側奥は、自然の生態系ができる限り守られるように、生物相保護区に指定されている。

生物相保護区に囲まれて建つ四阿。鴨池や集合住宅を展望できる。



エゴの花が舞い散る5月の山園路。階段の素材には自然林となじむよう土居木が用いられている。



うっそうとした杉の既存林は、かつての静かな谷戸のたたずまいを偲ばせる。



ニュータウン内に数多く残された竹林。かつてこの一帯は竹や筍の産地として知られていたため、将来的にも積極的な保全・育成が図られる。



東側の歩行者専用道路と連続する谷戸部分には、自然林に囲まれた芝生広場が整備されている。既存林の山すそを流れるせせらぎにはヘイケボタルの姿も見られる。

存置裏側の小池とバーゴラ。すぐ横のせせらぎでは、毎年6月になるとゲンジボタルが飛びかう。



深い木立に囲まれた、山園路入口附近。

西工区と東工区を連絡するD-4橋。欄干部分にはカリリナジャスミンの植栽帯があり、公園橋にふさわしいデザインとなっている。



緑道4号につながる休憩広場。鴨池を水源とするせせらぎは、新横浜・元石川線の地下を横断して、この地点で再び地上に現れる。

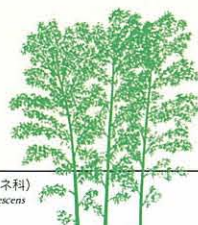


公園の竣工を記念した、長谷川昂氏による“呼びかける子供達”の彫刻。

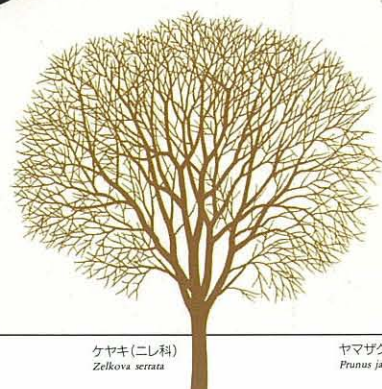
東工区で最も標高の高い位置に配置されたチャイニーズ風四阿。桃花の季節には、赤や白のやわらかな花が周囲を彩る。



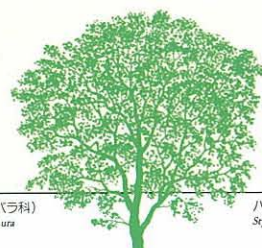
モウソウチク(イネ科)
Phyllostachys pubescens



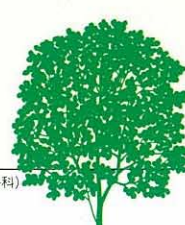
ケヤキ(ニレ科)
Zelkova serrata



ヤマザクラ(バラ科)
Prunus jamasakura



ハクウンボク(エゴノキ科)
Syrinx obasira



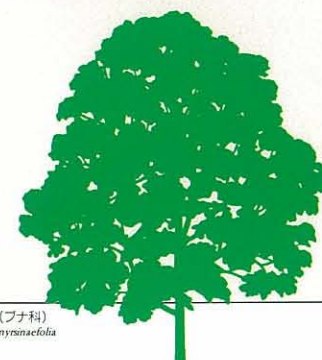
ヤマモモ(ヤマモモ科)
Myrica rubra



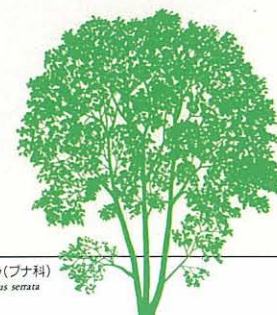
イロハモミジ(カエデ科)
Acer palmatum



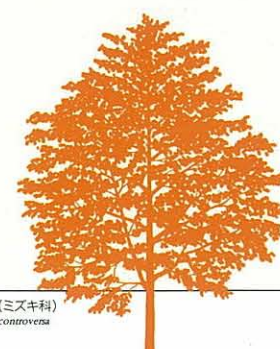
シラカシ(ブナ科)
Quercus myrsinaefolia



コナラ(ブナ科)
Quercus serrata



ミズキ(ミズキ科)
Cornus controversa





緑道5号 〈ゆうばえのみち〉

緑道5号は、第二地区の川和から佐江戸方面につながる、平均緑道幅員10メートルで、せせらぎのない「準幹線的緑道」である。地形上、谷部に属さず、平坦部や屋根部を貫いており、大規模な保存緑地は隣接していないが、通勤・通学の動線として極めて重要な役割を担っている。

DATA | 概要

所在地	緑区大丸、見花山、富士見が丘、池辺、川和各町
緑道幅員	9m～15m
緑道延長	2.1km
緑道面積	30,260㎡
整備年度	昭和55年度～62年度
整備種別	施設整備
現況林面積	0㎡



自然の素材や色彩で
周囲の緑と調和を図る

STREET FURNITURES



富士塚解説板—近隣13号公園



—近隣9号公園
グリーン・マトリックス案内



展望案内板—近隣13号公園



近隣11号公園



近隣11号公園

SIGNS | 案内表示



緑道4号



緑道4号

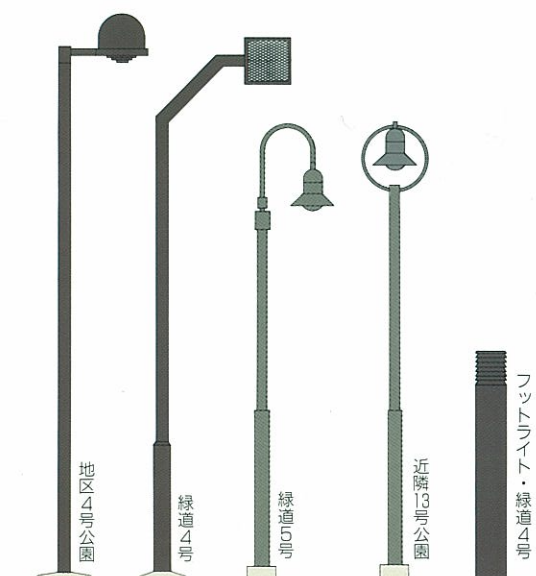


近隣9号公園



緑道4号

DRINKING FOUNTAINS | 水のみ



BENCHES | ベンチ

LIGHTS | 照明灯

GREEN MATRIX SYSTEM



港北ニュータウンのグリーン・マトリックス・システム

港北ニュータウンでは、公園・運動広場、集合住宅や施設用地内の保存緑地・緑地などのオープンスペースと、校庭や神社仏閣などを、緑道・歩行者専用道路で結んだグリーン・マトリックス・システムを採用している。豊かな自然に恵まれたコミュニティとレクリエーション活動の場を体系化することにより、敷地の有効利用、貴重な緑の保存・活用、都市防災などに役立っている。総合公園、地区公園、近隣公園の各公園は緑道で結ばれ、巨大なグリーンネットワーク(緑環)を形成しており、これが港北ニュータウンの都市の骨格を成している。

INDEX

